

2021 年度 第 1 回 動物実験委員会議事録

日 時 2022 年 3 月 24 日 木曜日 16:11～16:22
開催方法 ウェブ会議
出席者 伊藤、岡部、目野、尾上、天本
欠席者 なし
陪席者 小川

報告事項

1. 飼養保管施設の視察について（伊藤委員長）

- ・ 今年度、動物実験は実施されなかったため、飼養保管されている実験動物はいない。
- ・ 3 月 16 日（水）に 9 号館の飼養保管施設の視察を委員長、副委員長、庶務課長で実施した。
- ・ 別紙資料のとおり、設備、各種対策等のチェック項目 7 項目中 6 項目には問題はなかったが、「周辺への悪影響防止策」については、改善を要する点として指摘した。理由は、動物死体保存冷凍庫に実験動物の死体が保存されたままになっているためである。動物死体保存冷凍庫は、実験動物の死体を廃棄処分するまで一時的に保管するためのものであるので、できる限り早く廃棄処分を行っていただきたい。

以上の報告の後、実験動物の死体の廃棄処分方法について質疑が行われ、岡部副委員長から次のとおり回答がなされた。

- ・ 通常は、実験廃液の処理業者に廃液の回収をしてもらう際に、実験動物の死体も回収してもらって処分することになっている。しばらくの間実験廃液が出なかったため処理業者に回収の依頼をしなかった。次年度に入ってすぐに処理業者に回収を依頼する予定である。

2. 教育訓練について（伊藤委員長）

- ・ 大学、研究機関等では動物実験実施者等に教育訓練をすることが義務づけられている。動物実験委員会の Classroom に北海道大学が制作した動物実験に関する教育動画 3 本と PDF ファイルを保存しているので、必ず視聴すること。

3. 動物実験の外部検証の実施準備に向けた事前説明会について（小川庶務課長）

- ・ 1 月 28 日（金）13:00～15:30 に外部検証（第三者評価）の事前説明会が東京の会場とつないでオンラインで行われた。主催は日本実験動物学会である。
- ・ ほぼ例年と同じ内容の説明が行われた。大きな法令の改正はない。
- ・ 動物実験に関して、日本は機関管理体制（自主管理体制）になっている。そのため、外部検証を受けないと透明性の確保と機関管理の実効性が問われ、その結果、法律等の規制強化につながり、日本全体のライフサイエンス研究に悪影響を与え、

研究推進に重大な支障をきたすことになる。海外では、動物実験が国による許認可制となっているところもある。

- ・ 外部検証に有効期限はないが、5～7年に一度受検することを想定している。本学は、2016年度に一度受検している。
- ・ 説明会資料は庶務課に保管しているので、必要に応じて貸し出しをしたい。

以上の報告の後、伊藤委員長から、次年度以降、外部検証を受検できるような体制づくりをし、準備を進めたい旨が述べられた。

以 上

記録 小 川 尚